市民句会報

令和三年十一月二十三日

オーテピア高知図書館（高知市民図書館）　○印　味元昭次選　順不同

○生き幅は身のほどでよし神の留守
落ちてなお照り映える紅を踏まずおく
菊の印なぐり捨てて愛が飛ぶ　富子

○パン生地のふくらみ足りぬ神の留守
氏子皆銀髪揺らし落葉掻
ロープ張る堰は遊び場鴨の群　千代

枯節を撒くかに木下朴落葉
行いを一層正し神の留守
紅さして乙女心地の小春かな　登志

○夕空の月は欠けゆき神の旅
○文具屋の仕舞に並ぶ神の留守
落葉踏み老いしばかりの墓前祭　晴美

中空にくるくる廻る落葉かな
神の留守樟の大木倒される
遥か来て白河関神の留守　ふみ子

山道の一斉清掃神の留守
一枚の落葉やはらり草の上
迷いなく夕餉は鍋や冬に入る　農子

飛び越へてトレーニング犬へ舞う落葉
神の留守女子高生は背を正し
コスモスに我も幸かと聞く真昼　富江

狛犬の鋭き眼神の留守
蟷螂の祈る形に枯れゆけり
返り咲くしろ花しろ花鼓草　美貴

○パソコンで笹鳴を聞き寝るとする
柿落葉幾たびボタン掛け違う
シネコンの入場制限神の留守　弘

○母の部屋に考も来るらし神の留守
○五十回忌落葉踏み締め山の墓
年忌祭の寺の読経や銀杏落葉　丞子

○落葉踏む足裏にやさし日の温み
川土手は暫し野菊の風となり
草履提げ足袋でよちよち七五三　郁子

○神の留守一刻者へ星こぼつ
神の留守聞こゆ消ゆるは須磨琴や
神の留守球根植うる後何も　夕子

○一礼をして通り過ぐ神の留守
これでもかこれでもかとて降る落葉
今朝も又きりなき落葉掃いてをり　万貴

○犬が出迎える落葉の富枝館
○病んでゆく地球のはなし神の留守
これという覚悟もなくて古稀の秋　志津子

○冬薔薇告げたき事も凍らせて
落葉踏む音やわらかに通り過ぎ
一心に玉ネギ植える神の留守　えり

味元　昭次　作品

月光を踏む音あらず神の旅
廃校の蛇口天向く神の留守
落葉焚く背後に父を感じつつ

★次回市民句会
【開催日時】
令和三年十二月二十二日（水）
午後一時十五分～午後四時（予定）
【場所】
オーテピア４階　研修室
どなたでも自由にご参加いただけます